

協PR部 部分補修活躍の場拡大へ

第34回
総会

大口径対応の強みを

協PR工法協会（主催）の各支部はこのほど、都内で第34回総会を開催。大口径まで対応可能な豊富なラインアップで投入水対策から前年度まで対応可能な部分補修技術である協PR関連工法について、下水道関係大阪などでのPRに努める方針を盛り込んだ今年度事業計画案を承認した。

あいさつした下瀬会長

は、管路老朽化対策の中でも経済性に優れる部分補修工法での国土強靱化

重点調査を受け
小口径に脚光も

協PR部千葉支部
第33回総会

協PR工法協会千葉支部（下瀬幹事部長）は6月20日、補安市内で第33回定時総会を開催。



上瀬会長

への貢献を模索するとともに、情報共有や好事例の水平展開を求めた。

デモ施工などの工法PR活動の企画や会員相互の交流活性化のための請活動を盛り込んだ今年度事業計画案を承認した。役員改選では、上瀬支部長を再任した。

協PR工法協会千葉支部は、全国特別重点調査が進められており、今後大口径管（φ2000以上）の改築修繕を中心に事業員が増えることが予測されるが、小口径についてその後に続くものと期待している。経済性の観点からも部分補修工法の活用が集まるのではと期待した。千葉支部管内の協PR関連工法の施工実績は横ばいで推移していると前置きした上で、「限内の発注動向をみると伸びしろは多くある。1件でも多く受注いただきたい」と会員に呼びかけた。

昨年度の施工実績は、EPS（中口径）22カ所、エアモールD（大口径）15カ所、EPP（本管・取付管一体）9カ所、協PR（取付管更生）1カ所、関連工法1カ所となった。PR活動では、下水道関係などへ出展したほか、日本下水道事業団主催のデモ施工で取付管更生（EPP）を施工した。